

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人としてその人らしく生きるため、家庭的な環境の中で安らげる場所があること、今までの生活をグループホームの中でも継続できるように援助することを掲げた理念の下、職員・家族・地域住民と連携しご利用者様の支援に努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼の時に全員で上記の運営理念及び基本方針を唱和しています。それらを検証する為に、日々のサービス提供場面での、言葉かけ、態度、接遇、更に、記録等において、南葉の基本理念が職員に反映されるよう実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	一昨年5月に運営推進会議を立上げその後、隔月に開催、又、開所以来毎月「ほっかほっか便り」を発行し、「地域密着型サービス」に位置付けられた意義や、本会の運営理念・運営方針を家族会や地域への啓蒙、啓発に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	年2回の防災・避難訓練に地元町内会や近隣事業所の方々から参加協力を頂いたり、隣近所の方から野菜をいただいたり、栽培法を教えていただいて交流に努めている、「ほっかほっか便り」も町内に回覧をしていただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域住民の一員として、草刈りや盆踊り、運動会等に参加、又、地域の保育園児、小学生、中学生、大学生、老人会等がボランティアに来て下さいます、更にNPO法人の関係で、多くの各種ボランティア団体との交流に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	第2回認知症予防教室を地域包括支援センターと共催で、地域住民と家族会会員等を対象に10月に開催予定です。地元福祉専門学校等の実習生を積極的に受入れています。又、介護保険の相談や認知症の相談を常に受入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の外部評価結果報告書を必ず職員全員で確認し、改善する点は職員会議で検討しサービスの質の確保と向上に努めている、今回もサービス評価の意義や目的を全職員に周知し、全員で自己評価に取り組み、更なる、質の向上と確保に活かしています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月に開催し、提供しているサービス内容等を詳細に報告することにより、ご利用者様の「抱え込み」を防止し、地域に開かれた、地域に根ざしたGHになる為の、建設的意見交換の場である。19年度の外部評価の結果を報告し、委員からも高い評価を戴いたところである。委員のボランティア精神に感服している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	上越市介護保険課馬場課長、重原副課長等を月平均2回程度訪問し積極的な情報交換に努めている、又、運営推進会議にも来賓として出席を頂いている、上越市のモデル的グループホームに期待されているので、民生・児童委員、上越市介護保険評価会議委員等の視察等も積極的に受け入れている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事務長が厚生労働省の、社会福祉施設長資格認定講習課程を修了しているので、職員、ご家族等に対し機会があるごとに、「成年後見制度」や「地域福祉権利擁護事業」について、情報提供、アドバイス等積極的に行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員等にたいし、高齢者虐待の防止・高齢者の養護者に対する支援等に関する法律について、事務長(民生・児童委員)より勉強会を実施、必要に応じ家族会会員と、管理者、職員、事務長で情報交換を実施している、運営推進会議でも情報交換を行ない、虐待等の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所決定前に、運営規定、重要事項説明書、重度化した場合の対応に係る指針、利用料金等を説明し質問を受け、ご理解を戴いた上で入居手続きをさせて戴いている、なお、入居日には担当の介護支援専門員同席の上、再度説明を行ない、契約を行なっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員及び計画作成担当者のご利用者様の言葉、態度、表情等を常に観察し、ご利用者様の思いが叶えられるよう日々心がけている、又、ご利用者様の苦情、不満、要望、意見等を出して戴き、各ユニットで話し合いを行い運営に反映し質の高いサービス提供に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行の「ほっかほっか便り」にご利用者様の近況や外出ツアー等を写真入りで、職員異動等をお伝えしたり、来訪時に介護職員から暮らしぶり、看護師からは健康状態、会計からは金銭管理状況等を報告、金銭管理規定を作成し、出納等の報告は毎月実施している。</p>	<p>居室担当者がご利用者様の近況等の情報をお手紙にし、情報を定期的に提供している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会総会を毎年開催し、家族同士の情報交換会を行い、何でも言っていただける場面作りを実施し、意見、苦情、要望等を会長様から伝えていただいている。例えば、担当職員の顔写真を玄関に掲示しました、苦情、意見、要望等は法人の「宝もの」としております。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職場会議を毎月開催し、運営方法やご利用者様の受入れ状況、職員の異動、経営状況等の情報交換を行い、職員の運営に関する意見や提案、要望を聞き、質の向上につながるよう取り組んでおります。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日勤、遅番、夜勤体制をとり、ご利用者様と馴染みの時間を出来るだけ長く確保するローテーションに取り組んでいる。又、勤務シフトも無理のない勤務になるよう心がけている、職員の急な休み等の場合、管理者が入れるような対応等柔軟な体制をとっている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ご利用者様、ご家族様との信頼関係構築のためにも、馴染みの職員が対応することが重要だと考えておるが、定年及び家庭的関係等で退職する事がある、その時はご利用者様、ご家族様に出来るだけ早く連絡をすると同時に、引継ぎの期間を長く取るよう最善をつくしている。担当職員の固定化にも配慮をしている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>研修・マニュアル委員会のメンバーは、管理者、看護師2名、ユニットリーダーで構成され、毎月の職場会議で協議、検討を重ね、周知徹底と常に見直しを行なっている、必要に応じ主治医等専門職の意見も取り入れる等、サービス向上に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居困難であると認められそうな場合、重要事項説明書等をよくご説明し理解を戴いている、その上で、他のグループホームや、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設、地域包括支援センター等他のサービスにつながる提案を行なっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的に入所前に、ご本人ご家族様から見学をしていただくようにしている、また、事前訪問時に複数の職員が同行し馴染みの関係を作るよう心がけている、また、入所開始時は、精神的安定、行動障害等認知症の進行緩和が図られようサービス提供に努めている、更に、お試し入所等を提案している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩であるという考えは、全職員が共有している、その上で、食事作り、清掃、洗濯、買物、園芸、レク、行事等を協働しながら共同生活が出来るように、場面作りや雰囲気作りに心がけている、更に、人格、個人の尊厳に十分に配慮し、お互いが協働しながら生活出来る場面づくりに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行の「ほっかほっか便り」にご利用者様の様子や、エピソードを写真入りで、併せて職員の思いをお手紙にし伝えしている、また、便りには行事予定を記載し参加を呼びかけ、ご利用者とご家族が交流できる機会等を企画している。また、面会時間や場所の提供には十分な配慮をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者様とご家族様の思いを見極めながら、お買物、食事等ご家族と一緒に過ごされることを勧めし、お誕生日会等の行事の参加にお誘いをして、ご家族と疎遠にならないよう色々な機会を利用し、両者の思いが結びつくよう裏方として支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の夫の命日にお家へ帰られたり、行きつけの理髪店に行くなど、その人の生活習慣を尊重している。また、知人、友人等から訪問して頂いたり、お手紙やお電話をしていただいて、継続的な交流が出来るよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お食事やお茶の時間に職員と一緒に入り、出来るだけ多くの会話をもち、ご利用者様が孤立しないよう支援している。また、ご利用者様同士がお互いに支え合う、かばい合う等の場面作りに配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の福祉施設サービスをご利用されても、連絡を取り情報の共有や情報交換に努めている、また、病院に入院されても時々顔を出す等、継続的な人間関係構築に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が何をしたいか、誰に会いたいかが等、日々のかかわりの中で声を掛けたり会話をしたりして、暮らし方の希望や思い、意向等の把握に努めている、また、意志疎通が困難な場合は、ご家族等から協力していただき情報を得て、ご本人の最善の暮らしが何かを探し実践している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の人生歴・生活歴調査票を作成し、ご家族様からご協力をいただき、生活歴の把握ができ活用している。(プライバシーにふれる事なので十分説明をし、プライバシー保護への配慮をしている)その人の歴史を知る事で大きくかわりが変わり、個別対応が出来大変良かった。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画作成に当たって、1日の暮らし方や生活のリズムを把握し、自分で出来る事は出来るだけして頂けるよう支援し、出来ない事は援助を行なう、ご利用者様が主役、職員は脇役になるようにし、生活の場であると実感出来るよう必要な援助を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	人としてその人らしく生きるため、ご利用者様やご家族様から、思いやご意見をお聴きし、それらを反映させるように、全職員でモニタリングやカンファレンスを行い介護計画に反映させている、なお、当然の事であるが、ご家族様等に説明と同意を得て介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は万全ではなく、ご利用者の状況は刻々と変化している、ご利用者様、ご家族様、主治医等の意見や要望に応じて、臨機応変な対応が出来る体制で介護計画の見直しを行なっている。更に、季節や天候等に応じ、レク、行事、畑仕事など趣味嗜好に応じた活動をも臨機応変に取りいれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供したサービス内容を漫然と記録するのではなく、サービスの具体的な内容や、ご利用者様の具体的な食事摂取量、水分量、排泄等身体的状況等を記録記入し、介護計画の見直し等に役立つよう実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	往診の前日等に「医療情報提供書」を送付し、主治医ときめ細かな情報の提供及び共有化に努めている、また、看取りの近くや、容態の悪い時は、看護師や管理者が泊まりこむ等の体制をもっている、更に、夜間発熱等24時間看護師等による健康管理体制にも努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議メンバーに民生・児童委員さんに入っている、上越消防防火管理者協会、上越労働基準協会、上越健康づくり連絡協議会、上越社会保険委員会等に入会し役員も引受け、地域資源として活用している、更に、NPO法人の特徴を生かして多くのボランティアとの交流に努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	夜間における緊急時の対応等のため、介護老人保健施設、協力医療機関、病院等のバックアップ支援体制の整備。訪問理・美容サービスを利用してもらっている、また、紙おむつ等行政の助成サービスも受けている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議メンバーに民生・児童委員さんや地域包括支援センターから入っていただいて、権利擁護や成年後見制度等について情報交換等を行っている。今年も地域包括支援センターと共催で「認知症予防教室」開催の予定。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、かかりつけ医は、ご利用者の既往歴等を把握されているので原則変えない事とし、受診は基本的にはご家族様をお願いしているが、不可能な時は職員で対応している、医療情報提供書等は協力医療機関の主治医様から非常に高い評価を得ている、医療との連携は不可欠なものと認識をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事務長が元医師会の事務局長の関係もあり、認知症専門医等の協力が得られ、診断情報や治療方針、更に認知症等についての指示や助言をいただき、支援体制が構築されている。主治医と専門医との連携も非常に良く感謝をしているところである。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算の「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき看護師2名を配置し、日頃の健康管理や医療機関との連携は万全を期している。ご利用者様の症状が悪化した場合、看護師が夜間宿直をしたケースもある。看護職と介護職との連携も密に取れる体制が確保されている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時等のときは、主治医及び看護師、ご家族等から、病院の医師への情報提供に努め、適切な治療方針が早く確立され、結果的に早期診断、早期退院につながっている。入院時は主治医や看護師、家族と連絡を取り、頻繁に見舞い早期回復及び退院につながるよう支援をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重要事項説明書や重度化した場合の対応に係る指針を十分説明し、終末期の対応には基本的な理解を戴いている。重度化や看取り等に直面した場合は、ご家族、主治医、管理者、看護師、介護職等で協議し、終末期に対する対応方針を決めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	基本的に、ご家族、ご本人の意向を確認し、看取りを希望される場合は、ご家族、主治医と、「ここまでは施設で出来る・それは出来ない」等良く話し合い、誤解・思い違いのないようにしている。それで看取りを希望される場合は全職員にその旨を伝え、カンファレンスを行い、チームの連携支援体制の強化、緊急時、夜間、休日等の医療連携体制の確認及び家族対応等の連携体制の構築に努めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療行為が必要と判断されての長期入院による退居がケースとして過去にあった、重要事項説明書等で確認し、退居の際にはご家族の希望を踏まえ、プライバシーに配慮し次の事業所の職員への情報提供に努め、環境や暮らし方の継続性等に配慮していただけるよう働きかけをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>グルホ南葉個人情報管理規定の職員への周知徹底及び、ご家族様等への個人情報の使用に係る同意書での確認と同意に努め、プライバシー確保・保護に万全を期している。また、認知症高齢者ケアの基本は「尊厳の保持」であり、関係資料等を使用し職員研修を実施している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者様に寄り添い、ゆっくりとお話を聞き、ご本人の希望、感心事、趣味、好きな食べ物等をお聞きし、それを基に、複数の提案をしご利用者様から自己決定していただけるような場面作りをしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者様が主役となって暮らしていただく事を基本とし、お一人おひとりが何をしたいかを把握し、出来るだけ個別対応の出来る体制作り日々努めている。なお、お買物、散歩、晩酌等は臨機応変に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>男も女も「おしゃれ、綺麗でいたい、身だしなみ」は年齢に関係なく願望であり、それらを職員が支援する体制を取っている。馴染みの理容、美容室から出張して頂いたり、クリーニングに背広を出したり、洋服を買いに行ったりと、その人の好みや意向を大切に支援をしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者様と職員は三食とも一緒に食事をし、調理、片付け、洗い物、盛り付け等も一緒に行なっている、献立もご希望をお聞きし、旬のものは旬の時期に、更に、郷土料理、お袋の味の提供に努めている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品はそれぞれが別々であり、その情報収集にはご本人、ご家族様から出来るだけお聞きする事を原則としている、それらを踏まえてお一人おひとりに合った支援、配慮に努めている。なお、時に、お酒、塩分、糖分等の件で主治医と相談する事もある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	居室にトイレが全室設置されており「行きたい時にトイレに直ぐに行く事ができる」本人にあった生活リズムにそった体制が整備されている。排泄チェック票を利用し、時間を見計らって誘導する等、排泄パターンを把握し気持ち良く排泄していただくよう支援している。		おむつ交換に限らず、個人の尊厳を最後まで尊重し、気持ち良い生活が出来るような支援を行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の入浴としているが、ご利用者様の希望や体調、季節等で柔軟な対応に心がけている。「広い浴室でゆっくりと、ゆったりくつろいでいただく」それを大切にしている。プライバシーにも配慮した入浴支援に心がけている。		重度化及び終末期における入浴支援体制の充実の為、両ユニットにリフト浴の整備を行った。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、夜間等の様子を確実に申し送る事により、生活のリズム作りをしながら安眠の支援を行なっている。また、眠れない方には温かい飲み物等をお出ししたり、お話を聞いたりしながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人おひとりにあった楽しみや役割を見つけるように、ご家族様の協力等を戴き、得意な事、趣味、特技、又、若い頃の職業を把握し、その中から潜在している、残存機能等を引き出し活用できる場面作りに心がけている。生活歴、過去歴が非常に重要ある。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「初めてのお買物」ではないが、自分のお財布からお金を出しての買物時の笑顔を見れば、必然的に支援をしたくなります。金銭管理は規定等に基づき行っており、お買物は預かり金の中からお出ししております。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買出し時にご利用者様と同行し、気分転換、ストレス等の解消に努めている。また、季節、時間帯等を考慮し、公園、水族館、保育園、学校等をドライブ、散歩し五感刺激の機会としている。お買物での笑顔が非常に皆様素敵です、ご利用者様、職員共にストレス解消にもなっています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様の協力で、お墓参り、温泉旅行、外食、外泊等を職員と計画し実施された方々がおられ嬉しくおもいました、ホームでは、高田公園の桜、ハス、紫陽花見学等ドライブと出来るだけ外出の機会を多く持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	安全、安心、快適、自由を基本にしていますので、お電話やお手紙等、所謂、情報の交換・交流等を積極的に支援をしています		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、友人、知人等の方が多く訪問していただき嬉しく思っています、訪問された方々には常に「笑顔、笑顔」でお迎えし、お送りするよう心がけています、また、面会時間外でも心良く受け入れております、更に、居室も広くお部屋で楽しんでいただいております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症対応型共同生活介護の運営に関する基準を遵守し、法人の基本理念である、ご利用者様の安全、安心、快適、自由、な生活が送れるよう研修の場を提供し、権利擁護、人間尊重、認知症高齢者ケアの基本である「身体拘束のないケア」を実践しております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全、安心、快適、自由な生活を念頭に置けば施錠はあり得ないことであり、全職員が共通の意識を持って日常のケアにあたっている、幸いに事務室が玄関の近くにあり、帰宅願望等のご利用者様をお見受けした時は声をかけたり、散歩やベンチ等でお話をする等工夫を施している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜に関係なく、ケアの基本は「気配り」「目配り」「心配り」「見守り」の「4り」として理解をしている、フロアでは日々ご利用者様の状況を把握するように努めている、夜勤者はご利用者様の安全に配慮し常に緊急時に備えての夜勤としている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	人としてその人らしく生きるための日常生活用品は、ご利用者様の身体的状況等を勘案し、チームケアの中で話し合い、その人にあった必要な物品は出来るだけ居室に置くようにし、職員がその安全性や、危険度を常にチェック、状況変化の把握に努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災委員会主催で年2回上越消防署等のご指導で、避難、防災、消火訓練等を実施し家族会、町内会、事業所の協力をいただき実施している。また、研修・マニュアル委員会、事故防止委員会等が中心になり、転倒防止、誤薬防止等の研修を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	上越南消防署のご指導で救命救急法講習会を年1回開催している、なお、AEDの使用を含めた心肺蘇生法の実技講習をも実施した。また、緊急時対応のマニュアルを作成し看護師から医療的立場からの研修会を開催し急変や事故発生時に備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練等は上越南消防署のご指導で、地元町内会、事業所、運営推進会議、家族会等の協力をいただき開催している。今年度は実際の夜間を想定した夜勤者2名での訓練を実施した。なお、ご家族様には水害時、地震時別々の避難所マップを配布。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得ると想定されるリスクについては、主治医、ご家族様等と早め早めに協議し、早期発見、早期対応に努めている。また、特に医療に関するような場合は、他科の医師の意見も聞く等ご家族様が納得されるようにご説明をさせていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと併せて食欲や顔色等の様子の変化に気を付け、体調の変化の早期発見に努めている。変化があった時は、管理者、看護師に報告、記録をし、必要に応じ主治医、ご家族様と連携をとり対応している。併せて職員に報告、連絡を行なっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は原則的に看護師が行い、看護師が服薬ファイル等を作成し、職員に周知徹底を図っている、服薬時は本人に直接手渡し、服薬の確認を行なっている、また、誤薬防止等の研修会を実施している。なお、症状等の報告等と併せて処方、用量の検討を看護師が医療機関と連携を図り、情報の共有化に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を基本とし、食材等の工夫や水分、運動等を工夫し、排便チェックを行い、必要に応じ看護師が主治医と連携し下剤等によるコントロールを行なっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介護予防のための口腔機能向上等の研修会に職員を参加させ、口腔ケアの重要性を職員に理解し、肺炎等を予防する技術向上に取り組んでいる。業務としては、食後の歯磨きと義歯の洗浄等を行い、口腔内に食残の無いように気をつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事・水分摂取状況を毎日記録し把握するよう努めている。主治医や職員からの情報をもとに、一人ひとりの好みや状態に沿った食事提供、適切に摂取してもらえりような声かけが行なっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所主催の感染症研修会に職員を参加させ、感染症についての学習及びマニュアルの見直しを行っている。また、インフルエンザ、ノロウイルス等の予防対策に、強力殺菌生成水、ドクターノア超音波霧化器3台を設置し感染症の予防に努めている。インフルエンザ予防接種はご利用者様及び全職員が接種実施。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ノロウイルスの時期は原則二枚貝等の調理は行はない事としている、専門業者による台所、調理器具等の徹底清掃を年1回実施し、日常的には、台所の整理、整頓、消毒、清潔等、冷蔵庫の点検・清掃、食材の賞味期限の確認、在庫を出来るだけ置かないよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は「家」の顔です、ご利用者様、ご家族様、訪問者様に温かみのある雰囲気作りを念頭に置き、お花や植木で庭園の雰囲気を出し好評です、また、玄関に「グループホーム南葉」の表札を掲げ大変好評、二重ドアのお陰で冬は温室として利用しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、居間等が大変広く、共同生活を送る上でご利用者様に圧迫感が無く、ご利用者様、ご家族様に大変喜ばれている。テレビを見る人、編み物をする人、塗り絵をする人等広さが安心感になり、そこに居るだけでほっと安らぐような家庭的な温かさを提供出来る雰囲気づくりに努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	理事者側からの熱い想いで、共用空間を非常に広く確保して頂き、ご利用者様の不安やストレスを解消出来る様に、ソファ、テーブル、小上がり等利用、自由に過ごされる居場所が確保されており、気の合った仲間同士が思い思いに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の家具を持ち込まれ家庭的な雰囲気が出ており、時には眺めたり、触ったりと安心して過ごせるような居室になっており、ご家族様等に感謝しております。ご家族様がお泊りの出来るお部屋が一部屋ございます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、排気、吸気等、24時間ロスナイ換気、素晴らしい空調設備のお陰で快適な生活の場面提供がなされている、各居室もそれぞれ調整出来、温度、湿度管理を個別に注意しながら管理をしている、また、嫌な生活臭は無い様に常に心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の利便性等を課案し、昨年はテーブルと椅子を入れ変えた、使い易さ、安全性等を考慮しての結果です、常にご利用者様の身体機能等の変化に考慮した対応に心がけております。安全、安心、快適、自由な居住環境づくりに努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	同じ失敗を繰り返された時は、速やかに職員と話し合い「何が原因か・何が分かりにくいのか」等を把握し、「どうしたらご利用者様からやっていただけるのか」「どうしたらやり易いのか」を見極めて、それぞれに合わせた工夫を施している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇の花植え、畑の苗植、収穫等の屋外での作業、玄関先での「井戸端会議、日向ぼっこ」中庭でのウットデッキでのお食事会等、非常に広い敷地を確保していただいたおかげで、その人そのひとにあった、外回りの空間の活用に利用でき、癒し効果を上げている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1昨年5月に運営推進会議を立上げその後、隔月に会議を開催し、「地域密着型サービス」とは何か、その存在意義と役割を模索しながら質の向上と、地域に開かれたホーム、地域に根ざしたホーム、地域になくはないホーム目指し日々実践している。食材等の買出し時に、ご利用者様と同行し、気分転換、ストレス解消に努めている。また、看護師と主治医との医療連携には特に力をいれ健康管理に配慮したホーム、看取りが出来るホームを目指している。ご利用者様が主役で、安全、安心、快適、自由に生活出来るよう、ご家族様、地域住民、行政、各種ボランティア、そして笑顔が素的な職員の力を借りながら、明るく楽しいホームになるよう努力をしている「グループホーム南葉」です。